

氏名	伊藤麻衣子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5291号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Evaluation of aldehyde dehydrogenase 1 and transcription factors in both primary breast cancer and axillary lymph node metastases as a prognostic factor (乳癌原発巣と腋窩リンパ節転移巣でのALDH1と転写因子の発現は予後予測因子となり得るか)
--------	---

論文審査委員	教授 吉野 正 教授 加藤 宣之 准教授 大内田 守
--------	----------------------------

学位論文内容の要旨

ALDH1は乳癌幹細胞マーカーの一つであり、その発現は予後不良因子である。一方、上皮間葉形質転換は癌細胞に幹細胞としての性質を与える役割も持つ。そこで、ALDH1と上皮間葉形質転換を促進する転写因子の発現と予後との相関について、腋窩リンパ節転移陽性乳癌患者47手術症例を対象として検討した。原発巣と腋窩リンパ節転移巣両方でのALDH1、Ki67、転写因子としてSnail、Slug、Twistの発現を免疫組織学的染色によって評価した。

原発巣でALDH1とSlugが共発現を示した症例で有意にDFSが短かった($p=0.0094$)が、ALDH1と他の2つの転写因子の共発現群は予後との相関を示さなかった。

腋窩リンパ節転移陽性乳癌におけるALDH1と転写因子の共発現は、予後予測因子となり得る可能性がある。

論文審査結果の要旨

本研究は乳癌の予後因子を検討したものである。幹細胞マーカーであるALDH1と上皮間葉形質転換を促進する転写因子の発現と予後の関係について、腋窩リンパ節転移陽性47症例を用いて検討した。原発巣と転移巣両方において、ALDH1、Ki67、Snail、Slug、Twistの発現を免疫組織学的に検討評価した。その結果、多変量解析ではKi67陽性と原発巣でのSlug陽性症例でDFSが短かった。また、原発巣でALDH1とSlugが共発現した症例でも有意にDFSが短かった。しかし、ALDH1と他の2つの転写因子との共発現群とは予後との相関を示さなかった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、乳癌症例の予後予測に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。